

令和 2 年度第 1 回鶴岡市景観審議会 配付資料一覧

- 次 第
- 名 簿
- 席次表
- 参考資料
 - ・ 鶴岡市景観計画に係る行為の制限等に関する条例
 - ・ 鶴岡市景観計画に係る行為の制限等に関する条例施行規則
 - ・ 鶴岡市景観計画
 - ・ 携帯電話基地局の設置に関する景観形成ガイドライン
 - ・ 富士宮市抑制区域図（富士山景観等と再生可能エネルギー発電設備設置事業との調和に関する条例）
 - ・ 鶴岡第 2 地方合同庁舎の着工について（記者発表資料）

令和2年度 第1回鶴岡市景観審議会 次 第

日 時：令和2年12月15日（火）13時30分～
場 所：マリカ西館3階 市民ホール

1. 開 会

2. 挨 拶

3. 協 議

(1) 「鶴岡市における風力発電施設の設置等に係るガイドラインの改正」について

(2) その他

4. そ の 他

5. 閉 会

鶴岡市景観審議会委員名簿

任期 平成31年2月1日～令和3年1月31日（敬称略）

No	氏名	役職	分野
1	佐藤 滋	早稲田大学大学院教授	学術機関 アドバイザー
2	野堀 嘉裕	山形大学農学部名誉教授	学術機関
3	高谷 時彦	元 東北公益文科大学大学院特任教授	学術機関
4	稲泉 眞彦	登山家(元鶴岡工業高等学校 校長)	教育(建築)
5	斎藤 留吉	(一社)山形県建築士会鶴岡田川支部 顧問	建築
6	秋野 公子	(一社)山形県建築士会鶴岡田川支部 事務局長	建築
7	佐藤 友行	(一社)山形県建設業協会鶴岡支部理事	建設
8	土田 一彦	(一社)日本造園建設業協会山形県支部副支部長	緑化
9	さとう れいこ	公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会山形地区幹事	広告デザイン
10	柴田 和彦	文化財保護審議会委員 (鶴岡工業高等学校教諭)	文化財
11	佐藤 友和	鶴岡商工会議所副会頭	経済
12	佐藤 康一	山形県庄内総合支庁建設部長	行政

令和2年度第1回 鶴岡市景観審議会 席次表

日時: 令和2年12月15日(火) 13:30~
場所: マリカ西館 3階 マリカ市民ホール

スクリーン

【オンライン参加】

- ・早稲田大学大学院 教授 佐藤 滋 委員
- ・元東北公益文科大学大学院特任教授 高谷 時彦 委員

登山家(元鶴岡工業高校校長)
稲泉 真彦 会長

会長席

(一社)山形県建築士会鶴岡田川支部
顧問
斎藤 留吉 委員

(一社)山形県建設業協会鶴岡田川支部
理事
佐藤 友行 委員

(公社)日本グラフィックデザイナー協会
山形地区幹事
さとう れいこ 委員

鶴岡商工会議所
副会頭
佐藤 友和 委員

プロジェクター

集音マイク

Webカメラ

山形大学農学部
名誉教授
野堀 嘉裕 委員

(一社)山形県建築士会鶴岡田川支部
事務局長
秋野 公子 委員

(一社)日本造園建設業協会山形県支部
副支部長
土田 一彦 委員

文化財保護審議会
委員
柴田 和彦 委員

山形県庄内総合支庁
建設部長
佐藤 康一 委員

事務局

事務局

傍聴・記者席

傍聴・記者席

出入口

「鶴岡市における風力発電施設の設置等に係るガイドライン」の改正について

平成29年度に策定した「鶴岡市における風力発電施設の設置等に係るガイドライン」に所要の改正を行うことにより、本市の有する豊かな自然環境や歴史的・文化的資源から構成される良好な景観の保全と事業者と市民の相互理解による事業推進を図るものである。

1. 改正概要

- (1) 日本遺産の認定に関連する区域などを制限対象区域として明記
- (2) 市民への早期の段階における事業概要の公表
- (3) 事業実施にあたり、同意を求める範囲を拡大（市が指定する関係機関）

2. これまでの経過

(1) 有識者ヒアリング

- ① 山形大学農学部名誉教授 野堀 嘉裕 氏
- ② 東北芸術工科大学教授 三浦 秀一 氏
- ③ 鶴岡工業高等専門学校名誉教授 丹 省一 氏
- ④ 出羽三山歴史博物館学芸員 渡部 幸 氏（阿部権宮司）
- ⑤ 山形県エネルギー政策推進課・みどり自然課

(2) 庁内検討会議（11月13日（金）実施済み）

3. 今後のスケジュール（案）

- (1) 環境審議会 12月14日（月）14：00～
- (2) 景観審議会 12月15日（火）13：30～
- (3) 文化財保護審議会 書面協議により意見聴取

※ 3審議会からのご意見を踏まえ、修正を加えて年内に改正する。

※ 市HPにて改正後のガイドラインを公表する。

【資料】

1. 「鶴岡市における風力発電施設の設置等に係るガイドライン」改正案

鶴岡市における風力発電施設の設置等に係るガイドライン (改定案)

1 目的

このガイドラインは、市内において風力発電施設の設置等を行う事業者に対し、生活環境、自然環境、歴史・文化的資源等の保全の観点から自主的に遵守すべき事項や調整手順を明らかにすること等により、事業者と市民の相互理解のもとで、「鶴岡市地域エネルギービジョン」に基づく再生可能エネルギー利用の円滑な推進が図られるようにすることを目的とする。

2 定義

ア 本ガイドラインにおいて「風力発電施設」とは、風力発電の施設及び当該施設の設置に伴う送電線等の付帯設備をいう。(※1)

イ 本ガイドラインにおいて「設置等」とは、施設の新設、増設又は大規模な改修をいう。(※2)

3 対象

(1) 対象施設

ア 本ガイドラインは風力発電施設の設置等を対象とする。

イ 発電設備容量が合計 100kW 未満(※3)の風力発電施設については対象外とする。

ウ 環境影響評価法(平成9年6月13日法律第81号)に基づく環境アセスメントを実施する風力発電施設については、風力発電事業の実施に係る事前協議届出書(様式1)を提出することとし、環境アセスメントの実施にあたっては本ガイドラインに記載されている事項を十分に考慮するものとする。

(2) 対象地域

本ガイドラインは市内全域を対象とする。ただし、近隣の市町村において風力発電施設の設置等を行う場合であっても、本市に影響を及ぼす恐れがある場合は、本ガイドラインを適用する。

(3) 制限対象区域

前項に定める対象地域の内、日本遺産認定の文化・伝統を語るストーリーを構成する「出羽三山」や「松ヶ岡開墾場」、「加茂港周辺」に関連する区域、国指定名勝「金峯山」に関連する区域など、本市の豊かな自然環境や歴史的・文化的資源から構成される良好な景観形成に対し、甚大な影響を与える恐れのある区域については、風力発電施設の設置を制限する。

4 設置等に当たって事業者が遵守すべき基準

風力発電施設の設置等に当たり、事業者は次に掲げる事項の遵守に努めるものとする。

(1) 住宅等との距離

ア 住宅等（※4）と当該風力発電施設との距離が地上と風車の最高点との長さの3倍以上とすること。ただし、その距離が600m（※5）に満たないときは600m以上とすること。この場合において住宅等との距離とは、住宅等と風車におけるタワー基礎部分との水平距離をいう。

イ やむをえず前項の要件を満たすことが困難な場合においては、当該住宅等の住民（住宅以外の施設にあっては主たる管理者）より、風力発電施設の設置等について、同意を書面で得ること。

(2) 騒音

ア 環境基準が設定されている地域については、当該風力発電施設の設置予定位置から最寄りの住宅等において、騒音に係る環境基準（※6）の基準値を超えないこと。

イ 環境基準が設定されていない地域については、騒音に係る環境基準のB類型の基準値を超えないこと。

(3) 低周波音

低周波音については、住宅等において環境省「低周波音問題対応の手引書」の低周波音による物的及び心身に係る苦情に関する参照値（※7）（※8）を超えないこと。

(4) 振動

振動については、当該風力発電施設の設置予定位置から直近にある住宅等の敷地境界上において、振動に基づく地域の指定及び規制基準の設定について（平成24年鶴岡市告示第75号）に定める第2種区域の基準値（※9）を超えないこと。

(5) 電波障害

テレビ電波等（※10）に影響が発生しないよう十分に配慮し、必要な措置を講じること。

(6) 自然環境

風力発電施設の設置等によって自然環境に与える影響を可能な限り回避するよう十分に配慮し、必要な措置を講じること。

(7) 景観

ア 風力発電施設の設置等に当たって、鶴岡市景観条例（平成20年鶴岡市条例第17号）第4条の規定（※11）に基づき、良好な景観の形成を図ること。

イ 四季、昼間及び夜間における景観の変化を視覚的な表現方法（※12）によって予測し、予測した結果を市に対して提出すること。

ウ 配置、デザイン及び色彩等（※13）は、周囲の景観と調和が図られること。

エ 景観に与える影響が甚大で良好な景観若しくは風致を著しく阻害する場合（※14）は、必要な措置を講じること。

(8) 広告物

風力発電施設及びその周辺に広告物を表示する場合には、良好な景観若しくは風致

を害し、又は公衆に対し危害を及ぼすおそれのないもので、管理上必要とされる最小限の広告物のみを表示すること。

(9) 光害

風力発電施設及びその周辺に照明器具等を設置する場合には、周辺環境への影響が発生しないよう、必要な措置を講じること。

(10) 災害防止

ア 災害発生時の緊急連絡体制を整備すること。

イ 雨水等による土砂流出等で災害が発生しないよう適切な対策を講ずること。

ウ 土砂災害警戒区域及び急傾斜地への設置は災害防止の観点から極力避けること。

(11) 文化財

文化財保護法（昭和25年法律第214号）第1条（※15）に規定する文化財の保護及び活用が図られるよう計画するものとし、指定文化財（※16）及び埋蔵文化財（※17）以外の文化財についても、風力発電施設の設置等の影響から保護するよう努めること。

5 設置等に当たっての調整手順

(1) 市の窓口

事業者は、市民部環境課を市の窓口として、風力発電施設の設置等について市の所管部署と協議するものとする。

(2) 設置等に関する事前説明

ア 事業者は、風況調査~~に先立ち、開始前、又は環境アセスメント（※18）手続きの開始~~6か月前までに、当該事業の計画概要について風力発電事業の実施に係る事前協議届出書（様式1）に必要な資料等を添付し、市に対して事前に説明を行なうものとする。

市は風力発電事業の実施に係る事前協議届出書の提出があった場合、事業者と協議のうえ、速やかに事業計画を公表するものとする。

イ 事業者は、風況調査~~に先立ち、開始前、又は環境アセスメント（環境影響評価）~~手続きの開始6か月前までに、風力発電施設の想定事業区域から2km以内の設置等に係る環境影響を受ける範囲に含まれると認められる住民自治組織、住民及び周辺地権者（以下「住民等」という。）並びに市が指定する者市民に対して、当該設置等の区域地域及び規模等の概要について、事前に説明会を実施し、フォトモンタージュ等具体的な資料を提示し合意形成を図る行うものとする。

(3) 設置等に係る届出

事業者は、設置等の地域及び規模の概要を計画した時点で風力発電事業の実施に係る届出書（様式2）に必要な資料等を添付し、市へ提出するものとする。なお、様式1、又は様式2の提出後、事業を変更または中止する場合には、風力発電事業の実施に係る変更（中止）届出書（様式3）を市へ提出するものとする。

(4) 法規制に係る協議

ア 事業者は、風力発電施設の設置等に係る法規制について、市の所管課又は関係行政機関と協議し、必要な調整を行うものとする。

イ 想定される主な法規制は別表 1 のとおり。

(5) 住民等△の説明同意

ア 事業者は、5-（2）-イに定める住民等との合意形成を図るとともに、設置等の地域及び規模の概要を計画した時点で、設置等に係る環境影響を受ける範囲に含まれると認められる住民等に対し十分な説明を行うものとする。なお、~~発電設備容量が 1,000kW 以上（※1918）~~の場合には、説明を行う住民等が属する住民自治組織及び市が指定する関係機関、団体等の同意を書面で得るものとする。

イ 事業者は、事業の説明を受けて住民等から出された質疑、意見等を市に報告するとともに、には適切に対応するものとする。

ウ 事業者は、設置等に係る進捗状況について、必要に応じて市及び住民等に報告するものとする。

(6) 専門家等の意見聴取

市は、生活環境、自然環境及び景観等の保全の観点から、必要に応じて専門家等（※2019）の意見を聴取する。

6 設置等に係る工事中及び工事完了後における事項

事業者は、風力発電施設の設置等に係る工事中及び工事完了後においても、「4 設置等に当たって事業者が遵守すべき基準」、及び鶴岡市生活環境保全条例（平成 17 年条例第 151 号）第 3 条第 3 項の規定に基づく責務（※2120）の遵守に努めなければならない。

v

7 設置後の維持管理等

(1) 事業者は、設置等が完了した時点で発電施設設置報告書（様式 4）に必要な資料等を添付し、市へ提出するものとする。

(2) 事業者は、設置した風力発電施設について正常な機能を維持し、破損又は事故等を未然に防止するよう努めるものとする。

(3) 事業者は、設置後に騒音、電波等周辺環境への影響が発生したときには、原因を調査し誠意を持って対応をするとともに、その内容を市に報告するものとする。

(4) 事業者は、設置した施設を廃止するときは、原則として速やかに施設を撤去することとし、実際に廃止（譲渡含む）したときは、発電施設廃止届（様式 5）を市に提出するものとする。

8 その他

風力発電施設の設置等に当たり、住民等から事業者へ申入れのあった事項については、速やかに市へ報告するとともに誠意を持って対応するものとする。

9 市の施策への協力

- (1) 事業者は、市が実施する環境学習等に積極的に協力するとともに、地域貢献に努めるものとする。
- (2) 事業者は、設置した風力発電施設の発電量等の稼働状況について、市が求める場合には報告するよう努めるものとする。

10 ガイドラインの見直し

本ガイドラインは、今後の社会情勢の変化等により、必要に応じて随時見直すこととする。

附 則

- 1 このガイドラインは、平成 29 年 3 月 31 日から施行する。
- 2 このガイドラインの施行の際、現に本体工事に着手している風力発電施設の設置等については、このガイドラインは適用しない。
- 3 このガイドラインは、平成 30 年 4 月 1 日から適用する。
- 4 このガイドラインは、令和 3 年 1 月 1 日から適用する。

鶴岡市風力発電施設の設置等に係るガイドライン 付表

※1	送電線等の付帯設備	送電線等には、資機材等輸送用道路を含む。														
※2	大規模な改修	大規模な改修とは、風力発電施設等の変更で、機種 of 全面的な変更、又は環境、景観若しくは住民の生活に大幅な影響を与える変更（回転羽根、タワーの着色変更、回転羽根、タワーその他大型の資機材の交換等の保守作業）をいう。														
※3	100kW 未満	<ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）では、「事業を検討する目安は、地上高30mでの年平均風速が6m/s 以上であることが望ましい。」としている。地上高30m の風力発電施設の発電規模は、概ね100kW 程度である。 ・複数導入型においては、単機当たりの発電規模が100kW未満であっても、全体の発電出力が100kW 以上となる場合は、本ガイドラインの対象とする。（例：10kW の風力発電の施設を10 基導入する場合、全体の発電出力は100kW となり、ガイドラインの対象とする。） 														
※4	住宅等	住宅のほか、学校、幼稚園、病院などの文教施設・保健福祉施設等、及び一般に従業員が常勤する事業所等をいう。														
※5	600m 以上	<p>環境省による「風力発電施設に係る環境影響評価の基本的考え方に関する検討会報告書」では、騒音・低周波音の苦情等の発生が、最寄り苦情者宅までの距離が600メートル以内では、5,000 キロワットから10,000 キロワットが27 パーセントとなっている。</p> <p>今後3,000 キロワットの大規模の風力発電施設が設置されてくることや地形等による音圧の増加に対する安全率をみると、600メートル以上と設定することが望ましい。</p>														
※6	騒音に係る環境基準について (平成10年環境庁告示第64号)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">地域の累型</th> <th colspan="2">基準値</th> </tr> <tr> <th>昼間 (6:00~22:00)</th> <th>夜間 (22:00~6:00)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>AA</td> <td>50db以下</td> <td>40db以下</td> </tr> <tr> <td>A及びB</td> <td>55db以下</td> <td>45db以下</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60db以下</td> <td>50db以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>AA：療養施設、社会福祉施設等が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域 A：専ら住居の用に供される地域 B：主として住居の用に供される地域</p>	地域の累型	基準値		昼間 (6:00~22:00)	夜間 (22:00~6:00)	AA	50db以下	40db以下	A及びB	55db以下	45db以下	C	60db以下	50db以下
地域の累型	基準値															
	昼間 (6:00~22:00)	夜間 (22:00~6:00)														
AA	50db以下	40db以下														
A及びB	55db以下	45db以下														
C	60db以下	50db以下														

**鶴岡市風力発電施設の設置等に係るガイドライン
付表**

		<p>C：相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域</p> <p>※参考「風車騒音の距離減衰例」 (風車出力：800 キロワット、ハブ高50m) 200m→45dB、300m→41dB、400m→38dB、500m→36dB</p> <p>※参考「NEDO の見解」 NEDO では、「(風車の騒音の基準値が)定められていない地域では居住者への影響の程度を検討するため、「騒音に係る環境基準」等を風車騒音評価の目安として準用することが妥当」としている。</p> <p>※参考「騒音レベルの目安」 NEDO では、寝室内の音は40dB、パソコンの冷却ファンが45dB、静かなオフィス内の音は50dB、電話の呼びだし音が60db程度と例示している。</p>																								
※7	低周波音による物的苦情に関する参照値	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">1/3オクターブバンド 中心周波数(Hz)</th> <th style="text-align: center;">1/3オクターブバンド 音圧レベル(dB)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">5</td><td style="text-align: center;">70</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">6.3</td><td style="text-align: center;">71</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">8</td><td style="text-align: center;">72</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">10</td><td style="text-align: center;">73</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">12.5</td><td style="text-align: center;">75</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">16</td><td style="text-align: center;">77</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">20</td><td style="text-align: center;">80</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">25</td><td style="text-align: center;">83</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">31.5</td><td style="text-align: center;">87</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">40</td><td style="text-align: center;">93</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">50</td><td style="text-align: center;">99</td></tr> </tbody> </table>	1/3オクターブバンド 中心周波数(Hz)	1/3オクターブバンド 音圧レベル(dB)	5	70	6.3	71	8	72	10	73	12.5	75	16	77	20	80	25	83	31.5	87	40	93	50	99
1/3オクターブバンド 中心周波数(Hz)	1/3オクターブバンド 音圧レベル(dB)																									
5	70																									
6.3	71																									
8	72																									
10	73																									
12.5	75																									
16	77																									
20	80																									
25	83																									
31.5	87																									
40	93																									
50	99																									

**鶴岡市風力発電施設の設置等に係るガイドライン
付表**

<p>※8</p>	<p>低周波音による心身に係る苦情に関する参照値</p>	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">1/3オクターブバンド 中心周波数 (Hz)</th> <th style="text-align: center;">1/3オクターブバンド 音圧レベル (dB)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td style="text-align: center;">10</td><td style="text-align: center;">92</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">12.5</td><td style="text-align: center;">88</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">16</td><td style="text-align: center;">83</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">20</td><td style="text-align: center;">76</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">25</td><td style="text-align: center;">70</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">31.5</td><td style="text-align: center;">64</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">40</td><td style="text-align: center;">57</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">50</td><td style="text-align: center;">52</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">63</td><td style="text-align: center;">47</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">80</td><td style="text-align: center;">41</td></tr> </tbody> </table>	1/3オクターブバンド 中心周波数 (Hz)	1/3オクターブバンド 音圧レベル (dB)	10	92	12.5	88	16	83	20	76	25	70	31.5	64	40	57	50	52	63	47	80	41
1/3オクターブバンド 中心周波数 (Hz)	1/3オクターブバンド 音圧レベル (dB)																							
10	92																							
12.5	88																							
16	83																							
20	76																							
25	70																							
31.5	64																							
40	57																							
50	52																							
63	47																							
80	41																							
<p>※9</p>	<p>振動に基づく地域の指定及び規制基準の設定について (平成 24 年度鶴岡市告示第 75 号)</p>	<p>2 特定工場等において発生する振動の規制基準</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">時間の区分</th> <th style="text-align: center;">昼間</th> <th style="text-align: center;">夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">区域の区分</td> <td style="text-align: center;">午前 8 時から 午後 7 時まで</td> <td style="text-align: center;">午後 7 時から 翌日の午前 8 時まで</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第 1 種区域</td> <td style="text-align: center;">60 db</td> <td style="text-align: center;">55 db</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">第 2 種区域</td> <td style="text-align: center;">65 db</td> <td style="text-align: center;">60 db</td> </tr> </tbody> </table> <p>第 1 種区域：都市計画法（昭和 43 年法律第 100 号）第 8 条第 1 項第 1 号に規定する第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域、第二種住居地域、及び準住居地域</p> <p>第 2 種区域：都市計画法第 8 条第 1 項第 1 号に規定する近隣商業地域、商業地域、準工業地域、及び工業地域</p> <p>告示における規制基準の指定地域については都市計画法により上記のとおり地域指定されている。</p> <p>風力発電施設等は、昼夜問わず長期に渡り稼働するものであることから、最低限、工場地域も該当する第 2 種区域の基準を超えない程度となるよう、配慮を求める。</p>	時間の区分	昼間	夜間	区域の区分	午前 8 時から 午後 7 時まで	午後 7 時から 翌日の午前 8 時まで	第 1 種区域	60 db	55 db	第 2 種区域	65 db	60 db										
時間の区分	昼間	夜間																						
区域の区分	午前 8 時から 午後 7 時まで	午後 7 時から 翌日の午前 8 時まで																						
第 1 種区域	60 db	55 db																						
第 2 種区域	65 db	60 db																						

鶴岡市風力発電施設の設置等に係るガイドライン 付表

※10	対象となる電波	<p>電気通信業務用、放送業務用、気象業務用、人命と財産の保護・治安維持用、電気事業用、鉄道事業用、具体的には、テレビ局、電話局、自衛隊、海上保安庁、漁業無線中継基地、市町村の防災無線等がある。なお、周辺に民家がある場合、最も問題となるのはテレビ電波障害であり、送信地点、建設地点、受信地点の位置関係や風車規模によって変化する。事前の予測に基づき反射領域と遮蔽領域に居住地域が含まれないように候補地点を設定するものとする。</p> <p>※参考「電波障害」</p> <p>電波障害については影響の範囲を予測し、その範囲が住居と重ならないことを原則とする。しかしながら、風車のような複雑な形状をした構造物による影響を正確に予測することは困難であるとされる。したがって現状では、風車の建設前の状況を調査によって把握しておき、何らかの障害が発生した場合に然るべき処置を行うことで対応が図られている。建設後の調査によって明らかに風車による影響が現れ、事業者が共同アンテナの設置、アンテナの改善処置等、必要な対応をとったという事例もある。</p>
※11	鶴岡市景観計画に係る行為の制限等に関する条例	<p>(景観計画への適合)</p> <p>第4条</p> <p>法第16条第1項の規定により建築物の建築等又は工作物（建築基準法（昭和25年法律第201号）第88条第1項に規定する工作物及び規則で定める工作物をいう。以下同じ。）の建設等の届出をしようとする者は、当該建築物又は工作物を景観計画に適合させなければならない。</p>
※12	視覚的な表現方法	フォトモンタージュ合成写真、コンピュータグラフィック、ジオラマ（立体模型） 等を使って表現する方法
※13	配置、デザイン及び色彩	景観について客観的に評価することは難しいが、 周囲の景観と調和が図られるよう配置・デザイン・色彩等について配慮する。
※14	景観に与える影響が甚大で、良好な景観若しくは風致を著しく阻害する	市は、5の(6)に掲げる専門家等の意見を聴取して判断を行う。
※15	文化財保護法	<p>(この法律の目的)</p> <p>第1条</p> <p>この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もって国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。</p>
※16	指定文化財	文化財関係法令の規定に基づき指定を受けた文化財

**鶴岡市風力発電施設の設置等に係るガイドライン
付表**

※17	埋蔵文化財	土地に埋蔵されている文化財
※18	環境アセスメント	環境影響評価法（平成9年法律第81号）、又は山形県環境影響評価条例（平成11年7月23日山形県条例第29号）の規定に基づく環境影響評価をいう。
※19	1,000kw以上	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人日本風力発電協会（JWPA）作成の「小規模風力発電事業のための環境アセスメントガイドブック」において、自主的な環境アセスメント（自主アセス）の対象としている基準。 ・複数導入型の考え方については（※3）と同様。
※20	専門家等の例	<ul style="list-style-type: none"> ・環境審議会 （環境影響評価方法書等の内容に係る意見聴取） ・景観審議会 （当該施設の建設等の景観影響に係る意見聴取） ・文化財保護審議会 （当該施設建設等の文化財保護に係る意見聴取）
※21	鶴岡市生活環境保全条例	<p>（責務）</p> <p>第3条第3項</p> <p>事業者及び工事施行者は、その事業活動により大気汚染、水質汚濁、騒音、振動、悪臭、土砂・廃材・資材の散乱等を生じさせ、生活環境を損なうことのないよう必要な措置を講じなければならない。</p>

「(仮称) 山形県鶴岡市風力発電事業」計画の白紙撤回について

前田建設工業株式会社が計画しておりました、「(仮称) 山形県鶴岡市風力発電事業」については、9月9日に事業者ホームページにおいて事業計画の白紙撤回が公表され、事業者より環境影響評価法の規定に基づく「第一種事業の廃止等通知書」の提出がありました。

【通知日】 令和2年9月11日(金)

【通知書名】 第一種事業の廃止等通知書

【廃止事業】 (仮称) 山形県鶴岡市風力発電事業

【廃止日】 令和2年9月11日(金)

【廃止理由】

本年8月7日より縦覧開始した「(仮称) 山形県鶴岡市風力発電事業」における環境影響評価法に係る計画段階環境配慮書について、関係自治体、有識者及び一般の方々より頂戴したご意見を踏まえ、事業の検討を継続することが適当でないと判断したため。

【参考資料】

1. これまでの経過
2. 新聞報道 (R2.9.10 荘内日報 1面)

「（仮称）山形県鶴岡市風力発電事業」に係るこれまでの経過

年月日	項目	内容
R1.10..23	担当者来庁相談（初回）	市役所に来庁し風力発電の相談あり（この時点では北部のみの検討であった）
R2.3.12	担当者よりメール	相談した北部に加えて南部（黒森山周辺）も検討している旨報告あり
R2.4.6	担当者よりメール	両地区の大まかな事業予定地について提示あり
R2.5.21	担当者より電話	両地区で事業を進めたいが、事業概要等については、まだ未確定要素が多く提示できる段階ではない 風況調査に先立ち、環境アセスの配慮書を作成中
R2.6.1	環境アセス担当より電話	配慮書縦覧8月上旬予定（縦覧場所確保の依頼あり） 事業概要資料の提出を再度要求
R2.6.2	環境アセス担当よりメール	事業概要として、計画段階環境配慮書（案）の抜粋を受領
R2.6.5	庁内情報共有	事業概要について、市長報告様式提出 併せて、関係部課長宛情報共有
R2.6.18	市長説明	事業概要について、市長説明
R2.6.30	市に対する事業説明会	市関係各課への事業説明会開催 計画段階環境配慮書の縦覧について、正式依頼あり
R2.7.10	市議会議員へ情報提供	6/30説明会時の資料をタブレット配信
R2.7.9 ～ R2.7.13	関係各所への情報提供	7/9 出羽三山神社 7/9 羽黒地区区長会長 7/13 櫛引地域区長会役員会 7/14 朝日地域自治会連絡協議会長 7/15 藤島町内会長連絡協議会長
R2.8.7	計画段階環境配慮書縦覧開始	計画段階環境配慮書の縦覧開始（～9/7（月）まで） 市広報8月号及び市HPで周知
R2.8.18	反対署名開始（web）	ネット上で建設反対の署名活動が開始
R2.8.21	市長定例記者会見	「重大な懸念」と表明
〃	住民説明会	羽黒今野集落（27戸）にて事業者主催の説明会
R2.8.25	県知事記者会見	「ありえない」と表明
R2.8.26	庄内町長見解表明	「理解できない」と表明
〃	住民説明会	羽黒向山集落（22戸）にて事業者主催の説明会
R2.8.31	地元での反対署名開始	地元有志による「出羽三山の風車建設に反対する会」が反対署名を呼びかけ
R2.9.3	鶴岡市議会一般質問 （市長答弁）	一般質問に対して、「この段階で事業者から事業の取り下げを望む」と市長が答弁
R2.9.5	住民説明会	藤島添川集落（151戸）にて事業者主催の説明会 ※説明会場では初めて反対意見が出された
R2.9.9	事業の白紙撤回	事業者HP上で、事業の白紙撤回と環境アセスメント手続きの取り下げを公表 → 環境・景観・文化財保護審議会での意見聴取を中止
R2.9.11	廃止等通知書受領	環境影響評価法の規定に基づく「第一種事業の廃止等通知書」を受領